12月 きゅうしょくだより



大崎学園調理場

和食の良さを知ろう①

和食の「一汁三菜」ってなぁに?

昔ながらの日本の食事は、「一十三菜」が基本になっています。一十三菜とは、ご飯に 汁もの、おかす3種(主菜1品、副菜2品)で構成された献立のことです。ご飯でエネルギー源 となる 炭水化物を、汁もので水分を、おかずでその他の栄養 をバランスよくとることができます。洋風化されている私たち の食生活を「日本型食生活」に見直したいものです。

主菜 副菜

主食・主菜・副菜・汁 物はそれぞれ大切な 動きをしています。 おぜんの形でしっか り食べましょう。



健康的な和食のポイント

旬を味わいましょう

主食

季節の海・山・野・川の 多くの食材を取り入れ、旬 の味を楽しみましょう。旬 の食材は味もよく、栄養価

動物性の脂肪を上手に

脂肪の多い肉類はゆでる・ 蒸す・焼くなどの調理法で余 分な油をとらないよう工夫し ましょう。

食物せんいを摂りましょう

かみごたえのあるものを

大豆・小魚・こんにゃく・海藻 ぐどかみごたえもあるものは、 をサランでたるる。 食べすぎむ 関病病を予防する。 脳を活性化す などの効果があります。

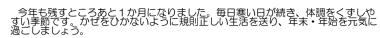
今月の予定

24日(火) 全校給食最終日

年末年始は、行事食や郷土料理などを食べる 機会が多くあります。食文化に目を向け、家族 で食事の時間を楽しみましょう。







美しい和食の作法

あいさつ



「いただきます」は「食べ物の命をいただく」こと、食べ物への感謝の言葉。「御馳走さま(ごちそうさま)」は作っちられた人たちへの感謝。どちをおきない、日本が誇る食文化です。

こうちゅうちょうみ * 口中調味 *



ごはんとおかすを交互に食べて 口の中ではいて調和力を楽しむまです。 とです。は禁物を入れたままの会話は禁物です。しっかり飲みこんでから食事の場に合う会話をしましょう。

正しい姿勢や持ち方

体を食卓の端からこぶし1個分離して背筋を伸ばして座り、器を 手で持って食べるのが基本です。器の内側に親指が入らないよう に、器の縁をおさえるように持ちます。



はしの持ち方 姿勢

食器の持ち方

12月22日は冬至です



冬至は、1年で最も昼の長さが短くなる日です。 この日はかぼちゃを食べて、ゆず湯に入るという風習が古くからあります。 これは、「湯治をして融通よく暮らせますように」という願いが込められてい

ます。
冬至と湯治、ゆず湯と融通で語呂合わせになっていますが、ゆずのお風呂に入り、体を温めて風邪をひかないようにすることは、理にかなっています。また、かぼちやを食べるのは、かぼちゃの色である黄色が厄よけになるといわれているからです。実際かぼちゃは、ビタミンであるカロテンを多く含む野菜で、からだの粘膜や皮膚の抵抗力を強くする働きがあります。
従ってかぼちゃを食べることにより、からだを強くして病気などの厄よけにないます。

ご家庭でも冬至には、かぼちゃを食べて、ゆず湯に入ってみてはいかが





★エネルギー・たんぱく質・塩分の表示は、左側が前期課程、右側が後期課程です。



る場合があります



2019年 12月 きゅうしょくだより

大崎学園調理場 TEL (38) 3113 FAX (38) 3133

和食の良さを知ろう②

新潟の気候風土は米作りに適しています。そのため、日本一と言われるおいしいお 米ができるのです。いつもおいしいごはんが食べられるわたしたちは幸せですね。ごは んを主食とした食事で健康に過ごしましょう。

ごはんを食べるといいことにくさん

エネルギーのもと

ごはんには、体や脳のエネルギー源として欠かせない炭水化物が豊富です。 ごはんを食べると、勉強や運動に集中 できる状態になります。炭水化物の他 にも、たんぱく質や無機質などが、バ ランスよく含まれています。





どんなおかずとも相性バッチリ

ごはんは、和・洋・中どのようなおか すとも相性が良く、自然と栄養バランス のとれた献立を作ることができます。ま た、ごはんは、おかすと一緒に食べるこ とで、食感や食味の幅も広がり、味わい 深くなります。







太りにくい

ごはんは粒のまま食べるので、ゆるやかに消化・吸収されます。そのため腹持ちがよく、お菓子などの間食の食べすぎを防いでくれます。つまり太りにくい食べ物です。



便秘になりにくい

腸の働きを調える難消化性でんぷん を含んでおり、便秘を防ぎます。





都合により献立の一部が変更になる場合があります。



★エネルギー・たんぱく質・塩分の表示は、左側が前期課程、右側が後期課程です。